

平成22年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 マガレイ

学名 *Pleuronectes herzensteini*

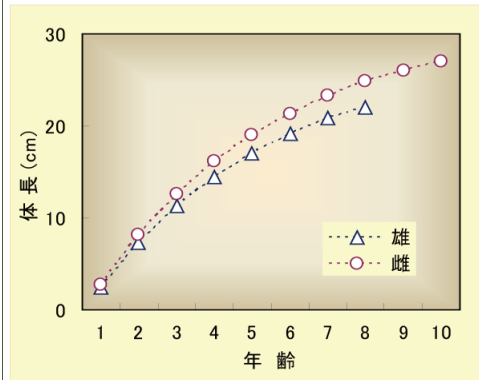
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雌10歳、雄8歳
成熟開始年齢: 雌3歳、雄2歳
産卵期・産卵場: 新潟県沿岸で2～5月(3～4月が盛期)、産卵場は水深50～90m付近
索餌期・索餌場: 夏～秋季に沖合の陸棚上
食性: 多毛類、二枚貝、小型甲殻類
捕食者: 不明

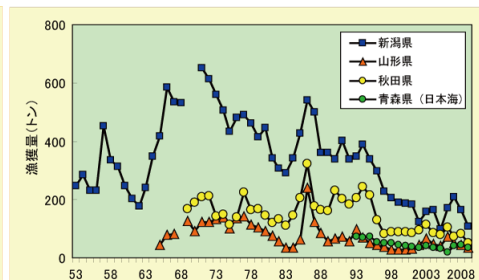
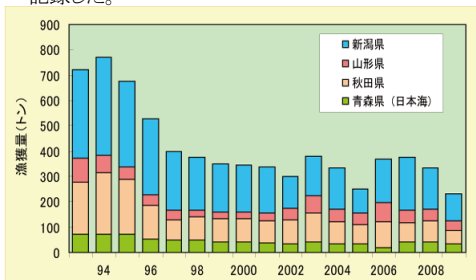


漁業の特徴

日本海北部(青森県日本海側～新潟県)でマガレイを対象としている主要漁業は底びき網漁業と刺し網漁業であり、2009年の漁獲量の割合は、底びき網が57%、刺し網が26%である。県別では新潟県の漁獲量が多い。

漁獲の動向

4県全ての漁獲量が把握されたのは1993年以降に限られるが、それ以前の県別の漁獲量は1990年代から大きく減少している。1993年以降では、1994年を最高に1997年にかけて漁獲量は急減し、それ以降の減少は緩やかになる。2003年と2007年に漁獲量はやや増加したものの、2008年から減少傾向を示し、2009年の漁獲量は232トンと最低を記録した。



資源評価法

日本海北部4県の漁獲量の経年変化を主に用い、沖合底びき網の資源密度指数、新潟県の板びき網のCPUE及び幼稚魚分布調査の結果を参考に資源評価を行った。

資源状態

漁獲量の推移、新潟県板びき網のCPUE及び沖合底びき網の資源密度指数から、現在の資源状態は低位水準と判断した。資源動向は、過去5年間のこれらの推移から横ばいと判断した。幼稚魚分布調査から、2011年に3歳魚として加入する2008年級群の豊度は、2009年に加入した2006年級群ほど低くはないが、低い水準の年級群と推測される。

管理方策

資源は、低位水準で横ばい傾向にあると考えられる。また2011年の3歳魚の加入量も低い水準にとどまると予測され、漁獲量を引き下げて親魚量を確保し、次の高い豊度の年級群の加入を待つことが必要である。

	2011年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	220トン	0.7Cave3-yr	—	—
ABClimit	180トン	0.8・0.7Cave3-yr	—	—

- 10トン未満を四捨五入

資源評価のまとめ

- 資源水準は低位、動向は横ばい傾向と判断される
- 2011年の加入量に多くは期待できない

管理方策のまとめ

- 漁獲量を引き下げて親魚量を確保し、次の高い豊度の年級群の加入を待つことが必要



- 水産庁では2003年7月に「資源回復計画」を作成

執筆者: 木下貴裕

資源評価は毎年更新されます。